

大阪大学 図書館報

Vol.37 No.3 (2003 年 12 月)

目 次

適塾関係資料について-----	1
図書館アンケート結果について-----	4
2004年の電子ジャーナル・サービスについて-----	8
平成15年度大学図書館職員講習会を受講して-----	9
教官著作寄贈図書-----	10
お知らせ -----	10
会議・日誌 -----	12

適塾関係資料について

村 田 路 人

現在、大阪大学には「適塾関係資料」といわれるものがある。大阪大学の源流の一つは適塾であるといわれるから、「適塾関係資料」なるものが阪大にあっても不思議ではないのだが、その存在を知る人は少ない。独立行政法人化を目前に控えた今、大阪大学はますます自らの存在意義を自覚する必要に迫られつつある。大学の存在意義が、その歴史と、そこで培われた伝統に対する理解のうえに自覚されるものとすれば、阪大の歴史に深いかか

わりのある「適塾関係資料」について知ることとは、単にその方面に関心のある人だけでなく、阪大の全構成員にとって必要であるといっても言い過ぎではない。以下、「適塾関係資料」について、簡単な紹介を行いたい。

さて、現時点において「適塾関係資料」と称すべきものは、大阪大学が所蔵する適塾関係の諸資料で、それはおおむね附属図書館本館書庫6層貴重図書コーナーに保管されている。しかし、ここで「適塾関係資料」という

のは、それに適塾記念会所蔵の諸資料を加えたものを指す。いうまでもなく、適塾記念会は阪大とは別個の団体であるが、その所蔵資料は、平成 15 年（2003）度中に阪大附属図書館に寄託されることになっており、現在その準備がなされつつある。寄託手続き完了後も、両者が融合することはないであろうが、両者あわせて「適塾関係資料」として、阪大附属図書館蔵書の特徴づけるものの一つとなることは間違いないだろう。

「適塾関係資料」の概要を述べる前に、緒方洪庵および適塾、史跡適塾と阪大との関係、適塾記念会などについて触れておかなければならない。緒方洪庵と適塾の名は、現行の高校日本史の教科書のほとんどすべてに登場し、知名度は抜群といってよいが、大阪北浜に適塾の建物が往時の姿を残していることや、それを阪大が管理していることなどは、意外に知られていない。残念なことに、阪大の教職員や学生ですら、大半がそのことを知らないのである。

緒方洪庵は、1810 年（文化 7）に備中足守藩士の子として生まれた。大坂・江戸・長崎で蘭学を修めたあと、1838 年（天保 9）大坂の瓦町（現大阪市中央区瓦町四丁目）で開業し、塾生の指導にあたった。この瓦町の家は手狭であったので、1845 年（弘化 2）過書町（現大阪市中央区北浜三丁目）に家を購入し、そこへ移転した。これが現存する旧適塾の建物である。ここで、福沢諭吉・大村益次郎をはじめ、橋本左内・大鳥圭介・佐野常民・長与専斎など、日本の近代化をになった幾多の俊才が育ったのである。

大坂の医学界で高い名声を得ていた洪庵は、1862 年（文久 2）幕府に請われて幕府奥医師となり、江戸に移り住むこととなる。ところが、慣れぬ江戸で心労が重なったこともあり、翌 63 年、にわかの大咯血により、54 年の生涯を終えることになる。

さて、洪庵が去ったあとの適塾であるが、

洪庵の婿養子緒方拙斎（洪庵四女八千代の夫）によって塾は維持され、明治の中頃まで塾生の教育は続いていたという。旧適塾の土地・建物は、その後一時的に他人の手に渡ったこともあるが、おおむね緒方収二郎（洪庵六男）家の所有物として、昭和の時代を迎える。1940 年（昭和 15）大阪府の史跡となり、翌 41 年 12 月には文部省の史跡（「史跡 緒方洪庵旧宅及塾」）に指定された。太平洋戦争勃発のころである。文部省史跡指定を機に翌 42 年、適塾の土地・建物は国に寄付され、譲渡を希望した大阪帝国大学の所管となった。同年 10 月 8 日には、当時の文部大臣橋田邦彦氏を迎え、旧適塾において譲渡式が行われている。その後、1945 年（昭和 20）8 月の終戦まで大阪は何度も空襲に見舞われるが、旧適塾は奇跡的に焼失を免れた。現在大阪市内には、ほとんど江戸時代の町家は残っておらず、旧適塾は江戸時代大坂の町家の遺構としても、きわめて貴重なものである。旧適塾の建物は、1964 年（昭和 39）5 月に重要文化財に指定され、76 年（昭和 51）には文化庁による解体修復工事も始まった。工事は 80 年（昭和 55）に竣工し、今日の姿となった。

適塾記念会は、1952 年（昭和 27）11 月の創立である。阪大微生物病研究所の藤野恒三郎教授や文学部の藤直幹教授らの有志が、当時の今村荒男阪大総長を動かし、実現を見たものである。設立の趣旨は、洪庵および適塾関係者の業績を顕彰し、日本における近代的な学問の発展を解明することであった。適塾記念会は、会誌『適塾』の刊行、講演会・展示会の開催、関係資料の収集、また適塾門下生の調査・顕彰などが主たる活動で、財政困難による活動休止の時期もあったが、現在は 1000 名を超す会員（学内約 500 名、学外約 550 名）を擁する一大組織となり、阪大の現教職員と元教官が中心となって活動を続けている。なお、会長は阪大総長が務めることになっている。

このように、適塾の歴史を振り返ってみると、適塾と大阪大学との深いかわりに、改めて気づかされるであろう。さらにもう一つ、1869年(明治2)に大阪府が大阪本町に設立した仮病院および医学校は、洪庵次男で嗣子の惟準や洪庵婿養子の拙斎、さらに適塾門下生たちによって運営されたが、これがのちに大阪大学医学部および同附属病院へと発展していったことも付け加えておかねばならない。適塾が阪大の源流といわれるのは、このことによる。

ここでもうやく「適塾関係資料」の説明に入ることになるが、前述のように、その内容は、阪大所蔵分と、近く附属図書館に寄託されることになっている適塾記念会所蔵分とに大別される。前者は、適塾関係資料の購入のために、昭和51年(1976)度以降毎年計上されている予算(「適塾予算」)や、その他の予算で阪大が購入した資料、および阪大に寄贈された適塾関係の資料であるが、旧適塾の解体修復工事の過程で、壁や襖の中から発見された古文書なども含まれる。後者の大半は、緒方家や適塾門下生の子孫の家など、適塾にゆかりのある諸家よりの寄贈資料である。なお、これまで「資料」の種類については述べてこなかったが、ここでいう「資料」とは、江戸時代および明治時代を中心とする古文書・和書・洋書・書画・古地図などの歴史資料やそれらの複製、および現代の刊行物(資料集や研究書など)のことである。

以下、阪大所蔵分と適塾記念会所蔵分のそれぞれについて、いくつかの資料を取り上げて説明しておこう。阪大所蔵分で目を引くのは、1977年(昭和52)に、桑田立斎の子孫の桑田忠純氏・忠孝氏から寄贈された「桑田文庫」と称される一群の資料である。桑田立斎(1811~1868)は、洪庵と同じく、江戸の坪井信道のもとで学び、江戸や蝦夷地での種痘の普及に貢献した医者である。「桑田文庫」の中には、牛痘法を解説した『引痘要略解』

(1849年)を始めとする立斎の著書や、立斎の婿養子で明治期に医学教育や衛生行政に力を尽くした桑田衡平の訳書(『内科摘要』1875年、『病理新説』1876年その他)などがある。桑田家からは、この「桑田文庫」が寄贈される以前の1950年(昭和25)に、幕末期における立斎の蝦夷地での種痘の様子を描いた「蝦夷種痘図」の模写図が寄贈されている。

阪大所蔵分のうちでまとまったものはこの「桑田文庫」で、それ以外は、一点ごとまたは数点ごとの購入または寄贈資料である。この中には、福沢諭吉の「適々」の書がある。諭吉が1895年(明治28)ごろに詠んだ七言絶句で、旧適塾が阪大に移管されて間もなく、所蔵者であった故鈴木元造氏のご遺族から、鈴木氏の遺志に従って阪大に寄贈されたものである。旧適塾には、現在この書軸の複製が常時展示されている。

いっぽう、適塾記念会所蔵分であるが、その中心は、何といても緒方家より寄贈されたものであろう。洪庵の肖像、洪庵の日記・手紙・和歌短冊、洪庵の妻八重(1822~86)の日記・手紙など、洪庵夫妻の生活をしのばせるもののほか、『病学通論』(1849年刊)、『扶氏経験遺訓』(1857年刊、ドイツのフーフェランドの『医学必携』の訳)、『虎狼痢治療』(1858年刊、コレラの治療書)など、洪庵の著訳書が多数ある。

適塾記念会所蔵分では、記念会の適塾門下生調査がきっかけで、門下生などの子孫から寄贈されたものも、よくまとまっている。1983年(昭和58)に、渡辺公子氏から寄贈された渡辺家文書はその一つである。渡辺公子氏の先祖渡辺卯三郎は、加賀国大聖寺藩出身で、1848年(嘉永元年)適塾に入門し、1850年に塾頭になった人物である。洪庵も全幅の信頼を寄せ、卯三郎が大聖寺に帰郷した際、次男平三(のち惟準)・三男四郎(のち惟孝)を同人に預け、教育を任せたとあった。

この渡辺家文書の中では、「適塾生等級別名簿」が特筆すべきものである。適塾では、能力別のグループ編成が行われ、それぞれのグループごとに、月に6回ほどオランダ語の原書の会読が行われていた。会読での成績によって、毎月グループ内での順位が決まり、その順位に従って、寄宿塾生は好きな場所をとることができた。適塾では、寄宿塾生は1人当たり畳1畳と決められ、そこで勉学と起居を行っていたが、この場所が成績によって決定されたわけである。また、3ヵ月続けて一番となった者は、ひとつ上のランクのグループに進むことができた。このあたりのことは、福沢諭吉の自伝『福翁自伝』に詳しいが、どの塾生がどのグループに属していたのかといったことについては、「適塾生等級別名簿」が世に出るまで、まったく知られていなかった。この「適塾生等級別名簿」は、1859年(安政6)9月段階のもので、塾頭(長与専斎)・塾監(斎藤策順)および第一等から第九等までの各等と無等の該当者の名前(ただし、第一・第二等は該当者なし)を記しており、等

級別編成の実態を伝える貴重な史料である。

渡辺家文書以外でまとめたものとしては、適塾門下生で、のち幕府講武所や紀州藩、ついで浜松藩に招聘された西洋兵学者村上代三郎の子孫である村上阡三氏から寄贈された村上家文書、大阪仮病院・医学校で学んだ西村英蔵の子孫西村英男氏寄贈の西村家文書、洪庵の妻八重の実家億川家から寄贈された億川家文書があるが、紙幅の都合上、ここでは紹介することができない。

このように、「適塾関係資料」は、洪庵やその門下生の活躍をうかがわせる一級の資料群であるといっていよい。また、洪庵の著訳書をはじめとする、幕末～明治初期の医学・理化学書も豊富に含まれており、医学史・理化学史研究にも欠かすことのできないものである。今後、「適塾関係資料」がさらに充実したものとなり、適切な保存・管理が行われるとともに、学術的に優れた価値を有するこれら資料が、各分野の研究に活用されることを願ってやまない。

(むらた・みちひと 文学研究科教授、適塾管理運営委員会委員、適塾記念評議員)

利用者アンケート結果について

附属図書館本館では、本年7月に、サービスの改善、業務の改善のための基礎資料を収集するために、来館者に対してアンケート調査を実施しました。

アンケート調査にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

附属図書館では皆様から頂きました、ご意見、ご指摘等を踏まえて、できるところからサービスの改善に努めて行きたいと考えます。

以下に、アンケート調査の結果を報告致します。

1. アンケート実施期間

平成15年7月9日～7月18日

2. アンケート回収枚数 813枚

3. アンケート項目

(1) 回答者内訳	枚数	パーセント
学部学生	619	76.1%
大学院生	139	17.1%
教員	8	1.0%
研究員・研究生	18	2.2%
職員	13	1.6%
その他(不明)	16	2.0%

(1-1) 学部学生内訳

文学部	74	11.9%
人間科学部	30	4.8%
法学部	109	17.6%
経済学部	48	7.8%
工学部	97	15.7%
基礎工学部	126	20.4%
理学部	78	12.6%
医学部	25	4.0%
歯学部	2	0.3%
薬学部	11	1.8%
その他	19	3.1%

(1-2) 大学院生内訳

文学研究科	27	19.4%
人間科学研究科	8	5.8%
法学研究科	11	7.9%
経済学研究科	14	10.1%
理学研究科	28	20.1%
工学研究科	2	1.4%
基礎工学研究科	15	10.8%
言語文化研究科	18	12.9%
国際公共政策	4	2.9%
情報科学研究科	2	1.4%
その他(不明)	10	7.2%

(2) 主にどの図書館(室)を利用していますか。

(複数回答可)

1. 本館	806
2. 吹田分館	46
3. 生命科学分館	40
4. 部局図書室	39

(3) 図書館(本館)をどの程度利用していますか。

ほとんど毎日	224	28%
週に2~3回	335	41%
週に1回程度	173	21%
月に2~3回	48	6%
月に1回程度	17	2%
年に数回	8	1%

無回答 8 1%

(4) 図書館の開館時間・開館日についてどう思いますか。

現状で良い	401	50.0%
延長する	392	48.0%
短縮してもよい	3	0.3%
無回答	17	2.0%

(5) 図書館をどのように利用していますか。

(複数回答可)

順位

1. 図書館資料を使った学習	497	2
2. 図書・雑誌の閲覧	392	4
3. 図書・雑誌の借り出し	494	3
4. 自習	574	1
5. 新聞の閲覧	211	6
6. 研究個室の利用	115	9
7. グループ学習室の利用	102	10
8. データベース端末の利用	83	11
9. マルチメディアコーナー	164	7
10. サイバーメディア端末	248	5
11. レファレンスサービス	12	13
12. 図書館資料の複写	125	8
13. 学外への文献複写・ 現物貸借申込み	23	12
14. その他	5	14

(6) 図書館のどの資料を利用していますか。

(複数回答可)

順位

1. 開架図書	634	1
2. 書庫内図書	282	2
3. 参考図書	178	5
4. 学術雑誌	230	3
5. 教養図書	137	6
6. 新聞	195	4
7. 視聴覚資料	50	10
8. マイクロ資料	5	9
9. 電子資料	37	7
10. 貴重資料	5	9

(7) 図書館のどの資料の充実を希望しますか。			現状でよい	614	75.5%
(複数回答可)			もっと延長する	146	18.0%
			無回答	53	6.5%
1 . 学習用図書	742	1	(1 3) 図書館の環境について		
2 . 研究用図書	566	2			
3 . 教養図書	134	6			
4 . 参考図書	238	5			
5 . 学術雑誌	334	3			
6 . 教養雑誌	254	4			
7 . 新聞	110	7			
8 . 視聴覚資料	50	10			
9 . 電子資料	110	7			
10 . その他	92	9			
11 . 学位論文	5	9	1 . 空調・照明		
			よい	558	68.6%
			悪い	246	30.3%
			無回答	9	1.1%
			2 . 話し声・携帯電話		
			それほど気にならない	454	55.8%
			気になる	350	43.1%
			無回答	9	1.1%

(8) シラバス関連図書 (参考図書) をどの程度利用していますか。 (学生のみ)

積極的に利用している	36	5.8%
たまに利用する	201	32.5%
ほとんど利用しない	352	56.9%
無回答	30	4.8%

(9) 購入希望図書を申し込んだことはありますか

ある	46	5.7%
ない	696	85.6%
無回答	71	8.7%

(10) 次の図書館サービスを利用したことがありますか。 (複数回答可)

1 . レファレンスサービス	71
2 . 他大学への文献複写申込み	111
3 . 他大学からの現物貸借	36
4 . 他大学訪問利用	43
5 . 学内文献複写	83

(11) 図書の貸出冊数についてどう思いますか

現状でよい	684	84.1%
もっと増やす	84	10.3%
無回答	45	5.5%

(12) 図書の貸出期間についてどう思いますか。

3 . 館内での飲食		
それほど気にならない	572	70.4%
気になる	222	27.3%
無回答	19	2.3%

4 . 図書の配置・配列

分かりやすい	601	73.9%
分かりにくい	187	23.0%
無回答	25	3.1%

5 . 館内の表示・案内

分かりやすい	570	70.1%
分かりにくい	209	25.7%
無回答	34	4.2%

6 . 館内の端末台数

十分である	564	69.4%
足りない	208	25.6%
無回答	41	5.0%

(14) 図書館報、カレントニュースを知っていますか。

はい	161	19.8%
いいえ	640	78.7%
無回答	12	1.5%

(1 5) 図書館ホームページを利用したことがありますか。

ある	399	49.0%
ない	403	49.6%
無回答	11	1.4%

(1 6) その他、図書館についてどのようなご意見、要望をお持ちですか。(部分)

【開館時間の延長】	1 7 件
【月末休館日の開館】	4 件
【入退館ゲート】	4 件
・退館ゲートの誤作動	
・不正入館	
【東玄関】	1 9 件
・17時以降及び土日も開けてほしい	
【閲覧座席の増加】	2 2 件
【研究個室・グループ学習室】	1 1 件
・研究個室をふやしてほしい	
・グループ学習室をふやしてほしい	
・研究個室の冷房が効かない	
【空調】	1 6 件
・月日に関わらず暑いときには冷房を入れてほしい	
・場所により温度にムラがある	
・冷房が効きすぎる	
【館内での飲食】	8 件
・飲食を注意せよ	
・飲食可能コーナーの設置	
・休憩室を作してほしい	
【喫煙室】	3 件
・廃止すべきだ	
【騒音・おしゃべり等】	2 3 件
・注意してほしい	
・携帯を禁止すべきだ	
・館外からの声や車の音がうるさい	
【痴漢対策】	6 件
【トイレ】	1 4 件
・石けんがない	
・汚れている	
【設備】	5 件

・情報コンセントの増設	
・無線LANの導入	
・パソコン用電気コンセントの設置	
【マルチメディアコーナー】	5 件
・くわしい利用案内がほしい	
・ゲームは使えないようにすべきだ	
【サイバー端末室】	4 件
・プリンターがよく故障する	
・プリンター用紙を置いてほしい	
・ディスプレイが汚れている	
【蔵書検索システム】	1 2 件
・検索結果を印刷したい	
・システムダウンすることがある	
・遡及入力を進めてほしい	
・検索用のキーワードをふやしてほしい	
【図書・雑誌の管理】	7 件
・OPAC で検索しても現物がない場合がある	
【館内の案内】	6 件
・表示が分かりにくい	
・図書の配置がわかりにくい	
【書庫】	5 件
・閲覧用の椅子や机を置いてほしい	
・図書の配置がわかりにくい	
・OPAC を置いてほしい	
【資料の充実】	4 1 件
・新しい本を入れてほしい	
・小説、ペーパーバック、文庫本等	
・教養図書	
・電気系図書、化学系図書、法律図書	
・伝統芸能のDVD	
・漫画	
・演劇関係雑誌	
・参考図書の充実	
・新聞を増やしてほしい	
【貸出サービス】	8 件
・長期貸出（公用貸出）で利用できない図書が多い	
・延滞者に注意してほしい	
・学内図書館の間での貸出返却を便利にしてほしい	
・ホームページからの図書の予約を可能にしてほしい	

- | | |
|------------------------------|-----|
| 【コピーサービス】 | 23件 |
| ・利用者が直接使えるコピー機を設置してほしい | |
| ・コピー料金が安い | |
| ・文献複写申込みをネットワークからできるようにしてほしい | |
| 【職員の対応が悪い】 | 9件 |
| 【吹田分館】 | 4件 |
| ・学習用図書が少ない | |

- ・建物が古い
- ・クーラーの効きが悪い
- ・パソコンを増やしてほしい
- 【その他】
- ・利用者の立場にたった図書館を
- ・本のカバーを外さないでほしい
- ・他大学の図書館と同じようなサービスを期待する

(附属図書館情報サービス課)

2004年の電子ジャーナル・サービスについて

主要な電子ジャーナルの2004年のサービスについては、現在提供している主要出版社のタイトルは基本的にそのまま使えますが、電子ジャーナルの有料化により一部に利用できなくなるタイトルが出てくる見込みです。

サイトライセンス契約している主要電子ジャーナル

以下の主要な出版社の電子ジャーナルは、今年と同様に利用できます。(出版状況等によりタイトルが増減することはありません。)

Blackwell Synergy

Blackwell Publishingの全電子ジャーナル(Munksgaardの一部タイトルを含む)約680タイトルが利用できます。

Science Direct (Elsevier)

Elsevier, Academic Press 及び関連出版社の全電子ジャーナル約1650タイトルが利用できます。

Kluwer Online

Kluwer社の全電子ジャーナル、約750タイトルが利用できます。

LINK (Springer)

Springer社と関連出版社の全電子ジャーナル、約500タイトルが利用できます。

Wiley InterScience
John Wiley社と関連出版社の全電子ジャーナル、約460タイトルが利用できます。

また、以下の電子ジャーナルも今年と同様に利用できます。

- ・American Physical Society (APS)
- ・JSTOR
- ・Nature online
- ・ProQuest Health&Medical Complete
- ・Optical Society of America (OSA)
- ・Science
- ・IEEE All-Society Periodicals Package (ASPP)
- ・IEEE Proceedings Order Plan (POP) Online
- ・ACM Digital Library

有料化により一部タイトルが利用できなくなる電子ジャーナル

以下の電子ジャーナルは、これまで冊子を購入していれば無料で利用できましたが、2004年から有料化されることになりました。電子ジャーナルも含めて購入するかどうかは、購入部局の判断によりますので、すべてが電子ジャーナルを利用できるわけではありません。また、大阪大学で購入していない

タイトルは電子ジャーナルが利用できなくなります。

Oxford University Press

Oxford University Press のタイトルは、国立情報学研究所(NII)の試験利用プロジェクトにより全タイトルの利用が可能でしたが、このプロジェクトは2003年12月末で終了し、2004年からは電子ジャーナルを含めて購入しているものを除いて、利用できなくなります。そのため、これまでは約130タイトルを利用することが出来ましたが、2004年から利用できるタイトルは約50タイトル余りとなります。

Cambridge University Press

Cambridge University Press のタイトルは、電子ジャーナルを含めて購入しているものを除いて、利用できなくなります。2003年までは71タイトルが利用可能でしたが、2004年には約50タイトルとなります。

Lippincott Williams & Wilkins

Lippincott Williams & Wilkins のタイトルは、電子ジャーナルを含めて購入している4誌を除いて、利用できなくなります。

平成15年度大学図書館職員講習会に参加して

福元 奈美

去る11月11日(火)から14日(金)まで、平成15年度大学図書館職員講習会が、本学附属図書館本館の図書館ホールにおいて行われました。受講対象者は、主として西地区の国公立大学の図書館職員で、本学職員2名を含め、92名の参加者がありました。

4日間の内、主に1日目と3・4日目は学内外からの講師による各テーマ毎の講義があり、2日目は共同討議が行われました。

講義は、「大学改革と大学図書館」のような組織運営に関わるもの、「海外の大学図書館の事例」、「電子ジャーナルの導入と契約」など、広範囲な内容でした。このような図書館界全般に渡るトピックスについて知ることができ、広い視野・考え方を持つきっかけができたと思います。

また、今回の講習会では、受講生の中に耳のご不自由な方がいらっしゃり、私がテイクノートを取るという役を任せて頂きました。このようにお役に立てたことを嬉しく思います。その方と手話を使ってお話しすることもできたの

で、手話を勉強していて良かったと実感しました。

共同討議は、3つのテーマごとに幾つかの班に分かれて行われました。そのテーマは1.「インターネットを利用した情報サービスの可能性と運用上の対策について」、2.「大学図書館における情報リテラシー教育の展開について」、そして3.「大学改革において求められる図書館運営改善について」でした。私は情報リテラシー教育担当ではないのですが、2.のテーマの討議に参加しました。その担当の方々にご協力頂いて情報収集し、討議に臨んだのですが、所属する図書館の代表として、その活動状況や意見を発表する難しさを感じました。その討議の構成メンバーの所属する図書館の規模や活動状況は様々でしたが、利用者が情報リテラシーを身に付けるための効果的な方法について、活発な意見交換ができました。

この講習会を通じて得られた知識・体験を活かして、今後の図書館活動を改善するための知恵を出していければと思います。

(ふくもと・なみ 医学情報課 図書受入掛)

■ ■ ■ ■ ■ 教官著作寄贈図書 ■ ■ ■ ■ ■

(2003.9～11)

本館	
高橋明男 (法、教授)	行政法の基本：重要判例からのアプローチ / 北村和生 [ほか] 著 京都：法律文化社, 2003
経済研究科・ 経済学部	大阪大学経済学部 50 年史 / 大阪大学経済学部 50 年史編集委員会編 吹田：大阪大学出版会, 2003
林紘三郎 (基工、教授)	生体細胞・組織のリモデリングのバイオメカニクス / 林紘三郎, 安達泰治共著 東京：コロナ社, 2003 (ME 教科書シリーズ ; B-6)
平田達治 (名誉教授)	大都会の夜：パリ、ロンドン、ベルリン-夜の文化史 / ヨアヒム・シュレーア 著 平田達治, 我田広之, 近藤直美訳 東京：鳥影社, 2003
江川温 (文、教授)	歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ / 谷川稔編 東京：山川出版社, 2003
吹田分館	
黒沢英夫 (工、教授)	Fundamentals of molecular catalysis / edited by Hideo Kurosawa and Akio Yamamoto Amsterdam ; Boston : Elsevier, 2003 (Current methods in inorganic chemistry ; v. 3)

(敬称略：受付順)

■ ■ ■ ■ ■ お知らせ ■ ■ ■ ■ ■

●平成15年度大学図書館職員講習会開催

平成15年度大学図書館職員講習会が文部科学省との共催で、11月11日(火)～14日(金)までの4日間、主に西地区の国公立大学の図書館職員92名が参加して、本館ホールにおいて開催されました。この講習会は、図書館等の活動を促進す

るため、大学図書館等の中堅職員に対し、図書館業務最新の知識及び専門的技術を習得させ、その資質の向上を図ることを目的として、11名の講師による講義と三つの議題について班別による共同討議が行われました。

● 平成15年度人文社会系特別図書、高額参考図書の選定について

10月23日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入を決定しました。

・人文社会系特別図書

1. 明治の読売新聞 CD-ROM版
2. プロシア法制史 1737-1822年
3. 陸羯南著 日本 マイクロフィルム
4. 石川一郎文書 マイクロフィルム
5. ジョージ朝期文化資料集成 マイクロフィッシュ

・高額参考図書

1. 近代日本女性文献史料総覧
2. 昭和の読売新聞 戦前1CD-ROM版
3. 司法省年報 (3) 登記統計年報 マイクロフィルム
4. 農商務省商工局臨時報告 復刻版
5. The porphyrin handbook Vol.11-20 (ポルフィリン ハンドブック)
6. Encyclopedia of nanoscience and nanotechnology (ナノ科学技術百科事典)
7. 環境問題史料集成
8. 朝鮮地理全書

● 懷徳堂アーカイブ講座開催

11月28日図書館ホールにおいて、大阪大学文学研究科・(財)懷徳堂記念会・附属図書館・全国歴史資料保存利用機関協議会近畿部会共催の懷徳堂アーカイブ講座が開催された。
参加者数は60名、プログラムは次のとおり。

講演「大正天皇に献上された“懷徳堂紀年”」
講師 竹田健二 島根大学助教授
資料参観 「懷徳堂文庫貴重資料解説」「懷徳堂デジタルコンテンツの公開」
懇談会 懷徳堂・大阪大学関係者・全国歴史資料保存利用機関協議会関係者の懇談会

● 図書館ホールの利用について

図書附属館新館6階図書館ホールは主に附属図書館主催の会議、講演会、展示会等に使用しておりますが、使用していない時には学術研究や教育のための、学内の各種会議、講演会、展示会等にも広く公開しておりますので、ご活用ください。

図書館ホールは最大収容人員約150名、

スライド式白板、遠隔講義システム、コンピュータ画面の表示も可能な大型ディスプレイ、音響設備等を備えた施設です。

詳細につきましては、情報サービス課資料サービス掛（内線5066、又は
Email: service[at]library.osaka-u.ac.jp）までお問い合わせください。

■ ■ ■ ■ ■ 会 議 ■ ■ ■ ■ ■

豊中地区運営委員会

9. 9 (火) 16:30 ~ 17:37

1. 図書館資料の不用決定について協議した。
2. 大型コレクションの収書計画について協議した。

第3回学術雑誌専門委員会

11. 4 (火) 10:00 ~ 11:30

1. 平成16年度以降の電子ジャーナル経費確保について協議した。

■ ■ ■ ■ ■ 日 誌 ■ ■ ■ ■ ■

H15. 9. 1	第2回外国雑誌センター館幹事会	(東京工業大学)
9. 9	豊中地区運営委員会委員会	(本館)
10. 3	第77次国立七大学図書館協議会	(東京大学)
10. 29 ~ 30	国立大学図書館協議会理事会・常務理事会	(東北大学)
11. 4	第3回学術雑誌専門委員会	(本館)
11. 11 ~ 14	大学図書館職員講習会	(大阪大学)
11. 26	近畿地区国立大学附属図書館協議会部課長会議	(京都大学)

大阪大学図書館報 Vol.37 No.3 通巻 148号 2003年12月26日発行
 発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070
 e-mail: sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp